

## 会議要録

会議名称	第2回 西予市中学校再編検討委員会							
事務局	教育委員会教育部教育総務課学校再編係 電話 0894-62-6430 FAX 0894-62-6564							
開催日時	令和7年12月17日(水) 19:00~21:03							
開催場所	宇和地域づくり活動センター4階 大ホール							
出席者	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">委員</td> <td>22名(欠席3名)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務局</td> <td>教育部長 教育総務課5名 学校教育課4名 まなび推進課3名</td> </tr> </table>		委員	22名(欠席3名)	その他		事務局	教育部長 教育総務課5名 学校教育課4名 まなび推進課3名
委員	22名(欠席3名)							
その他								
事務局	教育部長 教育総務課5名 学校教育課4名 まなび推進課3名							
議事内容(要旨)								
委員長	進行：教育総務課長  <b>1 開会</b>  <b>2 委員長あいさつ</b>  <b>3 議事</b> 西予市中学校再編検討委員会設置要綱(以下、要綱)第6条第1項により、進行(議長)は委員長。  委員22人の方に出席であり、過半数以上の出席があることから、要綱第6条第2項により会議が成立することを報告する。  <b>(1) 前回検討委員会で質疑・意見のあった内容について</b> <b>ア 三瓶中学校の学校生活について</b> 三瓶中学校の学校生活についての説明を事務局に求める。							
委員長								
事務局	三瓶中学校の学校生活について説明する。							

委員長	委員に質疑・意見を求める。 (質疑・意見なし)
委員長	<b>イ 明浜中学校・城川中学校統合時について</b> 明浜中学校・城川中学校統合時について事務局に求める。
事務局	明浜中学校・城川中学校統合時について説明する。
委員長	委員に質疑・意見を求める。
委員A	<p>明浜中学校統合会議録を見つけた。</p> <p>平成8年8月から平成10年5月に渡って協議されている。</p> <p>田之浜地区・宮野浦地区からは俵津地区に中学校をということに対し、強い抵抗感があった。（通学時間30分～40分による負担）</p> <p>保護者の懸念としては、長時間通学と高校進学時の不適応。中間地点での校舎設置を要望していた。</p> <p>明浜から宇和へ通うことになった場合、現在よりもさらに多くの時間がかかることが予想される。</p> <p>そのため、これらの意見については、市教委において再度精査していただき、今後の話し合いの中に取り入れていただきたいと考える。</p>
事務局	会議録を借用願いたい。会議録を事務局で再度分析し、協議の際に提示したい。
委員長	<p>統合に伴う抵抗感については、次のような争点に整理できるのではないか。</p> <p>統合の負担に関する争点、合意形成に関する争点、学校の位置や場所に関する争点。</p> <p>以上の3点にまとめられると考える。これらについて共有させていただく。</p>
委員長	<b>ウ 中学生の声を活かす学校再編ワークショップについて</b> <p>中学生の声を活かす学校再編ワークショップについて委員長から説明する旨、発言する。</p> <p>中学生の声を活かす学校再編ワークショップについて説明する。</p> <p>事務局に補足説明を求める。</p>

事務局	<p>事前に生徒の皆さんに予備知識を入れておいたほうが、ワークショップがスムーズに進むのではないかと考えている。</p> <p>Zoomなどのウェブ会議で中学校と接続し、予備知識を提供することを想定していたが、校長先生方とのお話の中で「動画を作成してはどうか」というご意見をいただいた。</p> <p>動画であれば、時間にとらわれず、生徒が空いている時間に視聴できるため、予備知識の習得に有効だと考えている。現在、その動画を作成しているところ。動画の内容は次のとおり</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. なぜ中学生に学校再編を考えてもらうのか（子どもの権利条約の解釈）</li> <li>2. 中学校の現状（生徒数の減少推計、学校施設の老朽化）</li> <li>3. 生徒数減少による課題</li> <li>4. 少人数校の良い点</li> <li>5. 西予市が考える中学校再編案（一校または二校への統合）</li> <li>6. 他の再編方法（例：小中一貫教育）</li> <li>7. ワークショップ開催について</li> </ol> <p>以上の構成で動画を作成し、生徒さんへの予備知識提供を進めたいと考える。</p> <p>子どもの権利条約について、一般の団体の方から意見があった。</p> <p>中学校再編について、当事者である中学生、そしてこれから中学生になる小学生や幼児についても、意見を表明できる機会を設けるべきではないかという内容。</p> <p>子どもの権利条約第12条について説明</p> <p>中学校再編については、中学生については生徒会を通じて各学校の意見を集約する形を取る。しかし、小学生や幼児については、どのような機会を設定すればよいか、皆様から意見をいただきたいと考える。</p> <p>委員長</p> <p>委員にワークショップについて質疑・意見を求める。</p> <p>委員 B</p> <p>展開案には反対しないが、「子ども真ん中」という表現があるように、子どもの意見を尊重するという話が先ほどもあった。しかし、この再編という問題は非常に奥が深い。子どもと話をしたり意見を聞いたりする際、再編すべきか否かという直接的な答えを導き出すのではなく、子どもは未熟であり、この作業</p>
-----	---

	<p>の責任は大人にあると考える。したがって、子どもの意見を聞く際には「どういう環境で学びたいか」「どのような学校でありたいか」という視点で意見を引き出すことが望ましいと考える。</p> <p>事前に資料を見せること自体は良いが、その見せ方や説明の仕方によって誘導的になってしまってはいけない。未熟な生徒が情報を多角的に判断できるかどうかは不明である。情報を提示することは構わないが、再編の是非を問う形で答えを求めるとき、どちらかの答えは出るだろうが、参考にはならない可能性が高い。むしろ「どのような学校で生活したいか」という意見を聞き出す方が良いと考える。</p> <p>論点・争点の立て方については、統合すべきかどうかという論点ではなく、教育環境のあり方をしっかりと考え方をさせたいワークショップにしてほしいという意見だと受け止めた。</p> <p>学校教育においても、多面的・多角的な考察を促すことが学習指導要領に示されている。そのため、子どもの思考を促す資料の活用や選択のさせ方については十分に留意する必要がある。</p> <p>争点・論点についても、統合の是非ではなく、学習環境・教育環境のあり方をみんなで考える方向を重視したワークショップにしたいと考える。</p> <p>開催日が、1月22日と言うことだが、メインは中学校2年生以下か。3年生は受験などへの追い込みの時期で、参加が無理だと考える。</p> <p>生徒会の新役員のメンバーを想定している。自身の理解としては、中学校2年生と1年生が生徒会メンバーと考える。</p> <p>意見の集約先は3年生も含まれるのか。</p> <p>子どもたちの意見をどのように集約し、その上で参加するのかという点については、今後、中学校の校長らと詳細を詰めていきたいと考える。</p> <p>前回、高校生や中学生の話があったと思うが、今回は中学生のみなのか。高校生が入ると規模が変わる。高校に進学した後の意見も聞けるのではないかと思う。中学校時代はこうだった</p>
委員長	
委員C	
委員長	
委員C	
委員長	
委員C	

	<p>が、高校に入ってこうなったという移動の経験もあるので、高校生の意見を聞くことも可能ではないかと考える。</p> <p>ただ、先ほどの意見にもあったように、未熟な子どもは多いと思う。特に1年生や2年生の意見をどう扱うかも重要だ。どこまで中学生に求めるのか、どこまで負荷をかけるのかという点は気になる。</p> <p>委員長</p> <p>どこまでヒアリングの対象を広げるかという線引きの問題ではあるが、現時点では中学生の代表である生徒会の生徒に参加してもらう形でと考える。</p> <p>負担をかけることにはなるが、捉え方によっては、今だからこそその子どもたちにしかできないことでもあり、教育的な意味は大きいと考える。委員の皆様にもそのような観点で受け止めていただけだとありがたい。</p> <p>事務局、補足はありますか。</p> <p>事務局</p> <p>ワークショップは1月22日に開催予定。委員の皆様にご案内するものではないので、その点を理解していただきたいと考える。</p> <p>委員D</p> <p>議論を聞いていて思ったのは、未熟かどうかを大人がジャッジするのではなく、子どもの素直な意見として受け止めることが重要だという点である。アウトプットとして出てきた言葉が未熟であっても、その根底にある考え方を大人がしっかり汲み取ることが大切だと考える。</p> <p>負担がある時期ではあるが、中学生という当事者の意見は非常に重要なので、ぜひ実施してほしい。また、中学生自身を含めた学習環境のあり方という争点で話し合うことは非常に良いと感じた。</p> <p>加えて、もし仕事の都合が合えば、委員として傍聴することが可能かどうかを確認したい。</p> <p>事務局</p> <p>傍聴については、基本的には委員に限りとし、現在考えているのは、会場に大人が多くいると子どもが意見を出しにくくなる可能性があるため、対応策を準備している。</p> <p>この会場を予約しているが、隣の会場も確保しており、必要に応じてZoomなどで接続し、別室で傍聴できるようにする予定である。</p> <p>そのような形で参加していただければと考えている。</p>
--	---

委員長	心理的安全性の観点から、そのような形で環境を整えるということで理解いただきたい。
事務局	ワークショップの結果については、次回の会議で「こういった意見が出た」という形で委員の皆様に報告する予定。その点をご了承いただきたい。
委員C	タイムスケジュールについて確認したい。事務局では動画をまだ作成中とのことだが、現段階で作成中であり、事前の勉強会を実施し、22日にワークショップを実行することは可能なのか。年末年始のスケジュールが非常に詰まると思うが、そのあたりは問題ないのか。
事務局	事前説明用の資料については、現在パワーポイントとナレーションの読み上げ内容まで完成している。あとは音声を吹き込み、録画すれば作成可能である。 作業自体は一日あればできるが、上司の確認が必要ではあるが、今月中には学校へ送付できる見込みである。
委員長	事務局の尽力に加え、学校関係の先生方や子どもたち自身も、しっかりと意見を作る活動の時間を確保する必要があると考えている。そのため、詳細については校長先生や関係者と密に連絡・相談しながら進める予定である。委員の皆様にはその点をご理解いただきたい。
委員E	委員長が「べき論ではなく、学習環境のあり方を争点にしたい」と述べたので安心した。中学生の生の声を聞けるのは非常に貴重な機会だと思うが、これは一度きりなのか。一度だけでは不十分な気がする。複数回実施することで、意見が変わるものもいるだろうし、多様な考えが次につながる可能性もあると考える。
委員長	複数回実施するかどうかについては、学校行事などの都合もあるため、関係者と相談しながら検討する予定である。
委員C	ワークショップ後に、各学校で報告会のようなものがあるのか確認したい。生徒会だけで実施し、他の生徒が内容を知らないという形になるのか。それとも「こういうことをしました」という発表会のような形になるのか。

委員長	その点も含め、詳細については学校の校長や関係者と今後詰めていく予定である。
委員C	できれば報告があった方が良いと考える。ただし、保護者を含める形ではなく、生徒のみを対象とした報告にしてほしい。
委員長	その詳細についても今後検討となる。
委員C	下の学年、小学校や保育園の子どもにも報告の対象を広げるのか、それとも中学校のみで終わらせるのか確認したい。
委員長	委員会での報告に加え、ホームページにも公開する予定になっているか確認したい。
事務局	公開する内容の範囲については、正直、結果を見てみないと判断できない。検討委員会でも報告を行う予定であり、その報告内容については、会議録としてホームページに掲載することが可能である。かいつまんだ形にするか、詳細にするかは内容次第だが、公開は行う方針である。
委員長	ワークショップについては以上とする。続いて、順番が前後するが、どこまで意見を吸い上げるかという点に関して、事務局から幼児・小学生の参画について発言があった。これについて質問や意見があればお願いしたい。
委員C	幼児・小学生の参画については、実質的に保護者の関与が前面に出る形になると考える。自分の娘は小学校1年生だが、こうしたテーマは多くが「?」という受け止め方になると考える。「中学校が一緒になるってどういうことか」ではなく「みんな一緒になって楽しい」というようなイメージで捉えがちで、子どもたちは“みんなで楽しく”という方向に思考が寄る傾向がある。保護者が関与すると、受け止め方や議論の形が変わってくる。
委員長	主権者教育の文脈では、ドイツでは公園の遊具の設置などの意思決定に5歳以下の子どもも関わる事例がある。しかし、学校再編というテーマは幼稚園児や小学生にとって意見を述べるのが難しい側面がある。 そのため、現時点では委員の立場で意見を持ち寄っていただく

	ことを基本とし、必要に応じてオブザーバーとして参加する機会を設け、適切な方を推薦いただき発言してもらう形が望ましいと考える。
委員C	<p>保護者の間では学校再編に関する関心が非常に高い。現状、情報が全く入ってこないため、決定後に突然通知されることへの不安が強い。保護者としては、自分たちの意見を反映したいという思いがある。他の学校や保育園の保護者も同様の考えを持っていると考える。</p> <p>特に、未就学児や低学年の子どもを持つ保護者は、中学校の生活イメージがつかみにくい。初めての子どもであればなおさらであり、アンケート回答時に「小さい子のイメージ」で答えてしまう可能性が高い。一方で、上の子が中学生や高校生の保護者はある程度イメージを持っている。</p>
委員長	お立場によって、不安に思われることは当然であると考える。
事務局	<p>前回の検討委員会において、委員からも意見があったとおり、今回の中学校再編に関する情報については、子育て支援課を通じて、保育園、幼稚園、こども園においてホームページに誘導できる形で情報提供をお願いしている。</p> <p>未就学児の保護者については、この後検討いただくアンケートを適切に実施する予定である。</p> <p>その意味では、こども権利条約 12 条の代理人という形で適用は可能であると考える。</p>
委員長	<p>委員の多様な立場で各方面の声を聞き、この委員会で持ち寄っていただけると助かる。協力をお願いする。</p> <p>事務局から発言があったとおり、予備知識を子どもたちに教え、伝えうえでワークショップを行うことも含め、全体について質問や意見があるか。</p> <p>(質疑・意見なし)</p> <p>来月 1 月 22 日にワークショップを実施し、結果について報告する予定である。協力をお願いする。</p> <p>(2) 中学校の現状、生徒数の減少による課題について      ア 部活動の現状と地域展開について</p>
委員長	部活動の現状と地域展開について事務局に求める。

事務局	<p>部活動の現状と地域展開について説明する。</p> <p>部活動について、一般の方から意見があったので紹介する。その意見は、再編計画素案の中で部活動が中学校再編の理由の一つとして挙げられていることに疑問があるというものであった。</p> <p>また、地域展開もあるため、中学校の再編とは別の課題として取り扱うのが望ましいのではないかという意見であった。</p> <p>中学校再編計画の素案について説明する。素案4ページに現状を記載しており、これはあくまでも現状の説明である。</p> <p>7ページには「部活動」という言葉が適正規模の考え方の中で出てくる。一定規模を確保する理由として、部活動においても生徒数や生徒の興味・関心に対応できる多様な活動が成立しない場合があるため、一定規模の学級数の確保が必要と記載している。</p> <p>部活動の地域展開については、令和12年夏を目標に事業を推進している。中学校再編は令和14年度を予定しており、その時点では地域展開は完了している見込みであるが中学校再編計画案の段階では部活動は残っている。</p> <p>また、地域展開が完了しても、地域クラブが学校の運動場や体育館などの施設を利用することや、指導者が地域に移っても校内でクラブ活動が行われることが予想される。吹奏楽部などの場合、学校の楽器を使用する必要があり、個人で準備するのは高額になるため、完全に部活動が学校から離れることはないと考える。</p> <p>各地域のクラブ種目数や団体数を確認したが、受け入れ状況には地域差があるのが実情である。再編計画素案には、部活動の地域展開に関する配慮も記載しており、16ページに、生徒が地域でクラブ活動を行う場合の移動手段について可能な限り配慮する旨を記載している。中学校再編により、地域クラブの種目数や生徒の選択肢が増え、移動手段への配慮も可能になる。</p> <p>部活動が地域に展開されても、社会教育の一環として子どもたちの教育環境において重要な施策であると考える。</p> <p>団体からは「別の課題として扱うべき」との意見があったが、再編計画への記載方法については検討する必要があるものの、中学校再編と部活動の地域展開は一つの課題として考えるべきと考えている。</p> <p>この点について意見をいただきたい。</p>
-----	--

委員長	部活動の現状と地域展開について質疑・意見を求める。
委員C	<p>部活動は単独で進めた方がよいと考える。再編の時期はまだ確定していないが、現状では保護者から「どうなるのか」という声が多く、クラブチームを新たに作ろうとする動きや、選手を引き抜こうとする人もいる。</p>
	<p>現状、明浜中では男子はバレー部しかなく、他の部活動を希望する生徒もいるが、選択肢がないためバレー部に入っている状況である。再編委員会として部活動を一緒に進めるのは適切ではなく、部活動の地域展開は再編より先に進めるべきと考える。クラブチームができれば、来年度から部活動加入は任意になるため、部活動の地域移行を優先すべきである。</p>
	<p>自分の息子（高校1年生）と話したところ、部活動は残してほしいという意見があった。部活動があったことで新しいスポーツに挑戦できたり、吹奏楽や美術部に入れたり、友達ができたという経験があるためである。しかし、現状では部活動が機能しない学校もあり、民間移行が始まっている。宇和の剣道部や、野村では箏曲部や相撲部が民間移行を進めている。</p>
	<p>このため、再編とは別に部活動を民間移行する方が、保護者にとっても分かりやすいと考える。</p>
事務局	<p>説明が不十分であったことをお詫びする。</p>
	<p>中学校再編と部活動の地域展開は、別事業として進めている。今回の意見は、再編計画素案に部活動を盛り込むことへの疑問であった。</p>
	<p>部活動が地域に展開されたとしても、学校と部活動が全く関わらなくなることはないと考える。そのため、再編計画に部活動に関する記載を入れ、説明することが必要であると判断している。</p>
	<p>一方で、意見としては「部活動は載せない方がよい」というものがあった。しかし、今後の関わりや、地域展開後のケア（スクールバスの運行など）については、再編によって対応できる部分があるため、再編計画に部活動を記載することが望ましいと考える。事業としては、完全に別事業として進行している。</p>
委員長	<p>今の議論は、部活動を再編計画に記載するかどうかに関連している。団体からも意見があったため、それを踏まえて質問や意見を求める。</p>

委員 F	<p>誤解のないよう説明する。</p> <p>先ほどの発言にあった宇和中学校の剣道部、野村中学校の相撲部・箏曲部について、民間移行しているとのことだが、現時点では移行していない。</p> <p>地域展開のモデル実証事業として、宇和中学校の剣道部と野村中学校の相撲部は外部指導者が多く関わっている。</p> <p>地域展開を進める上でのモデル校として、協力のあり方や将来的な姿を試行している段階である。</p> <p>現在も部の顧問は在籍し、顧問を通じた指導が続いている。</p> <p>今後どのような形になるかは未定であるが、現時点で完全に移行し、地域の指導者のみで運営しているわけではないことを説明しておく。</p> <p>イ 教職員の配置数について ウ 免許外教科担任制度について</p>
委員長	<p>教職員の配置数について、関連があるため免許外教科担任制度について事務局に説明を求める。</p>
事務局	<p>教職員の配置数について、免許外教科担任制度について説明する。</p>
委員長	<p>教職員の配置数について質疑・意見を求める。 (質疑・意見なし)</p> <p>免許外教科担任制度について質疑・意見を求める。 (質疑・意見なし)</p>
委員長	<p>教員不足の現状について説明する。</p> <p>現在、教員養成課程に所属しており、大学としては義務教育 9 年間を一貫して指導できるよう、小学校・中学校双方の免許状を取得できるよう指導している。また、複数教科の免許状取得を推奨している。しかし、教員不足が深刻であり、厳しい状況が続いているのが現状。</p> <p>エ 西予市中学校の課題について</p>
委員長	西予市中学校の課題について事務局に説明を求める

事務局	学校教育課長より説明する旨、発言する。
事務局 (学校教育課長)	<p>西予市内中学校の課題について説明する。</p> <p>西予市内の生徒は全体的に真面目で落ち着いており、学習や部活動にしっかり取り組んでいる。しかし、課題としては不登校生徒への対応が挙げられ、今後も重点的に取り組む必要があると考える。</p> <p>不登校対策として、市の基本方針は以下の3点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新たな不登校を生まないこと</li> <li>○多様な子どもに対して多様な視点から多様な手立てを取ること</li> <li>○第三の居場所づくりを行うこと</li> </ul> <p>具体的には、発達支援コーディネーターや適応指導サポートリーダーを中心に学校を訪問し、子どもの困り感を把握したうえで、担当職員と支援方法を協議し、子どもと直接話をして専門的な視点から手立てを講じている。</p> <p>これが「新たな不登校を生まない」「多様な視点から多様な手立てを取る」という取り組みである。</p> <p>また、第三の居場所づくりとして、宇和中学校では校内サポートルームを設置している。そこでは登校ナビゲーターがサポートルームの運営を担っている。</p> <p>西予市では、適応指導サポートを2名配置し、サポートルームに登校している生徒を支援している。学習面の支援や一緒に活動することが主な役割である。また、ICT支援員を1名配置し、遠隔授業のサポートを行っている。</p> <p>野村中学校では、教職員が対応し、校内にステップルームを設置して、教室に入れない生徒への支援を行っている。さらに、教育委員会と子育て支援課が連携し、教育支援教室「どこまな」を設置している。この教室は、学校に登校できない子どもが家から外に出て、大人や他の子どもと接する機会を持てるよう、今年度から設置したものである。</p> <p>また、小規模校であるがゆえに人間関係が固定化する傾向があると考える。現在、宇和中・野村中以外の3校は各学年単学級であり、生徒数や教職員数が少ないため、人間関係が濃く、変化が少ないという特徴がある。これは良い方向に働く場合もあるが、デメリットとして、友人関係の相性が悪くなると修復が難しく、逃げ場がなく孤立する可能性がある。</p> <p>良い点としては、教師が生徒を細かく見守れること、性格や悩みを把握しやすいこと、学習面で個別指導がしやすいことが</p>

	<p>挙げられる。一方、デメリットとしては、関係悪化時の孤立や逃げ場のなさがある。</p> <p>学習面でも多様な考え方に対する機会が少ないと考える。</p> <p>もう一点は、部活動の選択肢が少ないとや、人数が少ないと活動が制限される場面があることである。</p> <p>その他の課題として、西予市特有ではないが、今後も注意すべき点としてSNSの利用が挙げられる。中学生の利用率は非常に高く、私たちの知らないところでトラブルが起きないよう、指導面や日常の様子を把握し、常にアンテナを張って対応する必要がある。</p> <p>また、学力向上についても、学校ごとにさまざまな課題があるため、横の連携や多様な取り組みを検討し、向上を図っていきたいと考える。</p> <p>委員長 西予市内中学校の課題について質疑・意見を求める。 (質疑・意見なし)</p> <p>不登校生徒への対応については、現在、学習指導要領の改定に向けた議論が進んでおり、その中で不登校生徒への対応を検討するワーキンググループが設置されている。また、特異な才能を持つ児童への教育アプローチを検討するワーキンググループも今回初めて設置された。</p> <p>例えば、社会科において低学年で歴史上の人物を多く知っている子どもが、珍しがられて孤立する状況がある。こうした特性を生かした授業や教育指導のあり方をどうするかが議論されており、国レベルでは、居場所を確保し、教室環境に馴染ませながら才能を伸ばす方向性が取られている。</p> <p>「誰一人取り残さない」という観点と、才能を伸ばすという両軸で教育が議論されているため、この方向性を認識し、学校再編における教育環境のあり方の検討にも活かしていただきたい。</p> <p>(3) アンケートについて</p> <p>委員長 アンケートについて事務局に説明を求める。</p> <p>事務局 アンケートについて説明する。</p> <p>委員長 アンケートについて質疑・意見を求める。</p>
--	--

委員E	6番の質問について確認する。「再編しない方が良い」という項目は、中学校を残すという意図が弱く感じられる。質問文を「再編しない方が良い」ではなく、「中学校を残すべき」「中学校を残したい」という意見をより前面に出せる表現に変更してほしい。
事務局	内部で協議をさせていただく。
委員長	このアンケートは確定ではなく、修正可能という理解で良いか。
事務局	確定ではない。修正可能である。
委員長	アンケートについてのスケジュールは。
事務局	できるだけ早く決定したいと考えている。今日説明したので、現時点では意見が一つのみだが、持ち帰って検討いただければ、次回までに新たな意見が出る可能性がある。次回の会議で確定させたいと考える。
委員D	生徒会が中学生の意見をまとめ、それをワークショップに反映すると聞いているが、このアンケートについて、中学生自身が直接回答する機会は想定されているのか。また、地域住民として10代の中学生が応募してくる可能性はあるのか。事務局として何か考え方や方針があれば教えてほしい。
事務局	アンケートの中での10代というのは高校生や20歳までの社会人を想定している。今回のアンケートはウェブ形式で、誰でも回答できる形を取るため、中学生が回答する可能性はある。事務局としては、中学校に依頼して中学生に回答を求めるものではなく、あくまでも一般の方の意見を伺うことを目的としている。そのため、中学生が回答しても、こちらでは判別できない。
委員D	ワークショップで話し合われる内容は、中学校における学びの環境がどうあるべきかという点が基本になると考える。ただ、再編についても意見を持っている生徒がいる可能性があるため、ワークショップの運営方法が気になる。そうなると、アンケートに中学生の意見が含まれるのかどうか、全体的な状況を

	知りたいと思い質問した。
委員長	<p>ワークショップのあり方とも関係するため、内容をより精緻化する観点で述べる。学校再検討委員会が存在し、地域で学校再編の議論が進んでいることを踏まえ、中学生に対して「この再編についてどう思うか」を尋ねることは可能と考える。学習環境や教育環境のあり方について話し合った後、まとめとして「学校再編について、この委員会で議論しているが、自由に意見を書いてください」と促す形で、中学生に考えを求める事もできると考える。</p>
委員G	<p>2点述べる。</p> <p>1つ目は、先ほどの質問項目の表現についてである。「一中学校を残すべき」という表現は、メッセージ性が強く、多くの方が「もちろんそうだ」と感じてしまい、回答にバイアスがかかる懸念がある。結果が確定するわけではないが、仮に「再編しない方が良い」という回答が極端に多くなった場合、判断が難しくなる可能性がある。</p> <p>このため、表現のあり方については慎重に検討する必要があると考える</p> <p>次に中学生のワークショップで出た意見について提案する。ワークショップでは、中学生がどのような考えを持ち、どんな意見を出したかをホームページや委員会の議事録で公表してはどうか。</p> <p>アンケート回答者にとっても参考になるよう、アンケート画面にQRコードを掲載し、ワークショップ結果にアクセスできるようにすることで、より多くの方が情報を確認でき、アンケートの精度向上につながると考える。</p>
委員長	<p>質問項目については、事務局を含めて再度検討することで理解をお願いする。</p> <p>ワークショップの結果の公表内容についても、十分に検討したうえで委員の皆様に報告する。ホームページ等での公開については慎重に検討する方針である。</p> <p>また、中学校の校長とも相談しながら進める予定である。</p>
委員B	問3を聞く意図は。

事務局	<p>教育総務課に配属になる前は中筋地域づくり活動センターに勤務しており、公民館も含めて8年間在籍していた。中筋地域が野村中学校と事業をしているかと言われるとしている状況であった。</p> <p>年に一度、野村中学校の2年生が立志集会のウォーキングで訪れる程度。中筋地域は中筋に住む中学生とは事業で関わることがある、中学校全体や中学校の生徒の交流はほとんどなかつたのが実情である。</p> <p>このような状況を踏まえ、他の地域ではどうなのかを把握するため、この設問をあえて入れた。中学校が所在する地域では、地域と中学校が何らかの形で関わっていると思われるが、その他の地域ではどのような関わり方をしているのかを捉えることが目的である。以上の理由から、設問3を設定している。</p>
委員長	<p>市民に意図が伝わるかどうかを考慮し、この質問項目については修正も含めて再検討する必要があると考える。事務局で検討をお願いしたい。</p>
委員H	<p>問6や問7に「再編しない方が良い」というチェック項目があるが、そもそも問い合わせで「中学校の再編は必要だと思いますか?」と尋ねているため、重複している印象があり、不要ではないかと考える</p> <p>また、自由意見欄については、1行では記入できる内容が限られるため、もっと書きたい人のために記入スペースを広げる方が良いと考える</p>
事務局	<p>「再編しない方が良い」という表現について説明する。もともとは「反対」と記載していたが、その表現は適切ではないとの指摘を受け、現在の表現に変更した。今後、この表現方法について再検討したいと考える。</p>
<p>(4) その他について</p>	
委員長	<p>その他について事務局に説明を求める。</p>
事務局	<p>その他（次回開催予定、検討に関する資料）について説明する。</p>

委員長	<p>事務局より次回検討委員会を、令和8年2月5日 木曜日 19時開始 西予市役所5階大会議室が提案された。</p> <p>この日程で、進めても良いか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>次に検討に関する資料について、こういった資料が欲しいというような意見はあるか。</p>
委員 I	過去の中学校再編、小学校再編時にでた意見を確認したい。
事務局	旧村中学校に関する資料については自信がないが、小学校再編時の各地区の意見については準備可能である。準備ができ次第、次回の案内と併せて送付し、委員の皆様に目を通していただけるようにしたい。可能な範囲で資料を用意したい。
委員 J	次回の内容について、一学級の望ましい人数等とあるが、アンケートをとる前の段階で、どういう話合いをするつもりか。
事務局	<p>これまで西予市内の現状について説明した。その中で、委員が考える「この程度の規模の人数であれば、こういったことができるのではないか」という意見を伺うためのグループワークである。</p> <p>委員をいくつかのグループに分け、それぞれの中で「私はこう思う」「自分はこう考える」といった意見交換を行う。その後、各グループで出た意見を全体に発表し、全員で統一的な方向性を確認する。最終的に「この程度が望ましい」という基準をまとめ、進めていきたいと考えている。</p> <p>学級の人数については、法律上35人という決まりがあるが、それにとらわれず、例えば「私はこのくらいがよい」「学校運営にはこのくらいが適しているのではないか」といった意見を出し合う。それを西予市の目標として設定し、再編を進めていく方針である。</p>
委員長	第3回検討委員会では、グループワークの前に校長から報告を受ける予定である。報告内容には、中学校の一学級の人数など現状に関する情報が含まれる見込み。委員はその情報を参考にしながら、一学級の望ましい教育環境や学習環境について検討することを目的としてグループワークを行う意図だと考える。

委員 J	<p>アンケートには「一学年あたりどの程度の学級数が適切だと思うか」という問い合わせが含まれている。その結果を待たずに、中学生の意見やグループワークを踏まえた段階で話を進めることになるのか、その後にアンケートを実施し、再度議論することになるのか、そのあたりが重複するのではないかと考えられる。この点についてどのように進めるのかを確認する必要がある。</p>
事務局	<p>グループワークの内容については、相談しながら協議を進めさせていただく。アンケートはあくまでも参考資料であり、検討委員として自分の考えをしっかりと示すことが重要であると考えている。</p>
委員 F	<p>各学校からの報告について、各校からの報告内容が異なってもいけないため、市教委からある程度の方向性を示してほしい。</p>
事務局	<p>学校教育課、委員長と協議し、通知させていただく。</p>
委員 A	<p>明浜中では、11月17日に学校運営協議会を開催した。協議会ではさまざまな話題を取り上げたが、その中で今回の学校再編についても提案を行った。</p> <p>今回、西予市が示している統合案は「1校または2校に統合する」という内容であり、それ以外の統合の方法は検討されていないのではないかという疑問を持った。</p> <p>学校再編には小中一貫校や義務教育学校など、さまざまな形態があることを踏まえ、幅広い選択肢を検討する必要があると考えた。</p> <p>現状では、1校または2校の選択肢しか提示されていないため、参加者が他の統合方法を知らないまま最終的な判断を下すことには危険性がある。</p> <p>問い合わせがあった際に「十分に協議した」と自信を持って言えない可能性があると考え、学校運営協議会で提案を行った。</p> <p>明浜町としては、ある程度の方向性をまとめているが、今回は提案を控え、次回発表するよう市教委から依頼を受けている。</p> <p>必要な資料としては、例えば小中一貫校や義務教育学校の学校形態の説明が挙げられる。我々の地域の状況にどの形態が適合するのかを検討するため、メリット・デメリットを含めた説明資料を市教委に作成してもらいたい。</p> <p>また、義務教育学校は全国的に増加しており、その理由やメリット・デメリットについても提示してほしい。さらに、先進</p>

	<p>事例として愛知県などの事例を調査し、どのような統合方法を採用し、どのような成果が得られたのか、逆に見送った事例とその理由も示してほしい。</p> <p>こうした情報を提示した上で、さまざまな統合方法を検討し、最終的に一または二に決定するのであれば問題ないと考える。</p> <p>そのための資料の準備をお願いしたい。</p>
事務局	<p>その他の部分にも記載しているが、こうした意見もあると考え、次回の検討委員会では小中一貫校や義務教育学校について説明する予定である。しかし、先ほどの愛知県の先進校の情報については想定していなかったため、それらも含めて説明したいと考える。</p>
委員長	<p>現在の意見や要望については、アンケートの質問項目の順番などにも関係してくると考えられる。また、参考資料を確認したうえでアンケートに回答するという手順を踏む方がよいという判断も可能である。そのため、委員の意見を伺いながら、アンケートの内容を固めていきたいと考える。</p>
	<p>全体を通して、質疑・意見を求める。</p> <p>(質疑・意見なし)</p>
事務局	<p><b>4 その他</b> 特になし</p>
副委員長	<p><b>5 閉会</b> 閉会あいさつ</p>
	終了 21:03
備考	